

梅若会定式能 平成 30 年 6 月 17 日 (日)

ふ じ たい こ
能 『富士太鼓』

夫の非業の最期を知った妻は、亡き夫の形見(舞樂の装束)を着て『太鼓こそ夫の敵』と言って太鼓を打ち狂乱する。娘はそれを押しとどめる。

能 「富士太鼓」	シテ (富士の妻)	松山 隆之
	子方 (富士の娘)	松山 絢美
	ワキ (官人)	村瀬 堤
	アイ (官人の下僕)	野村 裕基

□見所

- ・隆之と絢美・親子の共演。
- ・母と子の哀愁が漂う、かたき討ちの物語である。
- ・夫を亡くした事を知り、形見の鳥兜と舞衣装を着て(物着)、舞を舞う。
そのうちに夫の亡霊が乗り移り心の葛藤と悲しみ(夫の殺された浅間への恨みと、妻の夫を亡くした悲しみ)を太鼓にぶつける。その母親の姿を氣遣う娘(子方)だが・・・。
- ・舞・楽(太鼓ナシ)
舞い進む程に気持ちが高揚し、太鼓と敵が重複して見え、狂乱の体で太鼓を打つ。
- ・太鼓を打って心が晴れた妻は鳥兜と舞衣装を脱いで娘と共に帰途につく。

他に	能 「花月」	シテ 会田 昇	ワキ 工藤 和哉
	能 「大会」	シテ 山中 迺晶	ワキ 館田 善博
仕舞	「通盛」	松山 隆雄	「草子洗」 川口 晃平
狂言	「膏葉煉」	野村 萬斎	